

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームほたるの里		
所在地	萩市須佐1378 - 1		
電話番号	08387-6-3168	事業所番号	3578100376
法人名	社会福祉法人 寿幸会		

訪問調査日	平成 22 年 3 月 31 日	評価確定日	平成 22 年 6 月 17 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7.12 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 9,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額	27,000 円		
	内訳	水道光熱費		

(4) 利用者の概要 (2月8日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	1	要介護 4	2
	要介護 2	4	要介護 5	0
	要介護 3	2	要支援 2	0
年齢	平均 86.1 歳	最低 79 歳	最高 93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 すさクリニック、松井医院、斎木病院 歯科 仁保歯科医院
-------------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者の好みに配慮された献立で、三食とも事業所で調理されています。利用者は職員と一緒に野菜の下ごしらえやテーブル拭き、お茶入れ、後片づけなどをされ、同じテーブルで会話しながら食事を楽しまれています。毎月の献立表を法人の管理栄養士に提出され、助言をもらってバランスのとれた食事が提供できるように取り組んでおられます。裁縫や園芸、カラオケ、花札、トランプ、ボール遊び、輪投げ、ぬり絵、花見、ドライブなどの楽しみごとや、利用者全員のうがい薬づくりを日課にされている方、洗濯物を干したり、たたんだり、テーブル拭きなど、日々の暮らしの中で利用者がやっておられた場面を沢山つくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援されています。

(特徴的な取組等)

災害時に対する備えとして、毎月1回事業所独自の消火訓練や避難訓練を実施され、その都度、利用者の誘導などについて検討をされています。併設施設や地域の協力員、利用者と一緒に年2回、避難訓練を実施しておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果について、ミーティングで話し合い、改善策を検討しておられます。地域密着型サービスとしての理念の追加や、自己評価の全職員での取り組み、介護計画作成時のモニタリングの結果の家族への報告や意見を聞かれるなど、具体的な改善に取り組みられています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解され、自己評価の項目を職員が分担して記入し、会議で話し合われたうえで、管理者がまとめて作成しておられます。

(運営推進会議の取組状況)

民生委員、行政推進員、地域包括支援センター職員、家族代表、利用者、管理者等のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。事業内容、利用者の状況、介護計画の説明、行事報告、災害時の協力依頼などで話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かされています。

(家族との連携状況)

毎月発行の事業所だよりにお知らせの欄を設けて、利用者ごとの暮らしぶりや健康状態などのコメントを添えられたり、毎月の献立表を送付しておられます。面会時や電話等で伝えたり、意見や要望を聞かれています。家族会を年2回開催されたり、アンケートを実施するなど連携を図っておられます。

(地域との連携状況)

地域の運動会、ふるさと祭り、敬老会等に参加したり、法人主催の祭りや盆踊り、クリスマス会に保育園児や地域の人の参加があり、交流しておられます。散歩や買い物などのとき、地域の人と出会うこともあり、挨拶を交わしたり、お話しをされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	これまでの理念に加えて、「地域住民、入居者家族、ボランティアとの交流を大切に、地域に開かれた施設を目指します」という事業所独自の理念をつくっている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関や事業所に理念を掲示し、月1回の会議の時に話し合っ共有し、地域に出かけて行くことを増やすよう努め、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2.地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の運動会、ふるさと祭り、敬老会等に参加したり、法人主催の祭りや盆踊り、クリスマス会に保育園児や地域の人々の参加があり交流している。散歩や買い物などのとき、地域の人と出会うこともあり挨拶を交わすなどしている。	
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価の項目を職員全員が分担して記入し、会議で話し合ったうえで、管理者がまとめて作成している。外部評価結果を検討し、理念の見直しや、評価の意義の理解、介護計画作成についてなど、改善に取り組んでいる。評価することで意義に気づき、ケアの反省点などを見出す機会としている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	民生委員、行政推進員、地域包括支援センター職員、家族代表、利用者、管理者等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。事業内容、利用者の状況、介護計画の説明、行事報告、災害時の協力依頼などで話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	福祉施設、事業所、地域包括支援センター、保健師等で構成している市主催の地域交流会(2ヶ月に1回)に参加し、情報交換等で市との連携を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行の事業所だよりに、お知らせの欄を設けて、利用者ごとの暮らしぶりや健康状態などのコメントを添えたり、毎月の献立表を送付している。職員の異動や金銭管理についても合わせて報告している。面会時や電話等で伝える他、家族会を年2回開催し、アンケートを実施するなど連携を図っている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを定めている。面会時、電話、運営推進会議、家族会、年2回のアンケートなどで家族等の意見や要望を聞いている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員8人を確保し、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できるよう勤務の調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。一週間程度の重複勤務を行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の内部研修に参加し、ミーティングの後に10分間程度復命している。外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供している。認知症など事業所の特性に対する研修は充分には行われていない。	・認知症と認知症ケアについての研修の充実
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修や勉強会に参加し情報交換などで交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族と相談しながら、事業所の見学や日中体験入居をしてもらい、他の利用者や職員と一緒に過ごしながら(お茶やお菓子、体験者には昼食など)馴染みの関係がつけられるよう支援している。家族の希望で止むを得ず直接入居となる場合は、職員が事前に面談し、情報を得て、馴染めるように工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理の下ごしらえや料理、食事の準備、野菜づくりなど一緒に行う中で、職員はいろいろなことを利用者から学んでいる。レクリエーションでは、利用者から昔の漢字を教わることもあり、ともに支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の会話や行動などから、利用者の思いや意向の把握に努めているが、記録はされておらず、職員間で共有して取り組むことが少ない。把握が困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・思いや意向の把握と記録の工夫</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月1回ケア会議を開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や職員の意見を採り入れて話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>モニタリングをもとに6ヶ月ごとに見直しをするほか、状態に変化が生じた場合は、家族や関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院の受診、入院時(家族の対応が困難な場合)の準備や搬送、お見舞いを行うなど支援している。移動理容院の利用の支援や、介護用品業者との連絡調整なども支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が、協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回の定期の支援や、協力医療機関の看護師と連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を契約時に伝え、事業所では対応できない状態になれば、病院や特養への移設への話し合いをし支援している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、研修を行い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう配慮している。トイレ入り口のドアは常時閉まらないようにしている。	・トイレのプライバシーの確保
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか、希望にそった支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みに配慮して献立を作り、三食とも事業所で調理している。野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、お茶入れ、後片づけなど一緒に行っている。食事は職員も同じものを食べ、会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日14時30分から16時頃まで湯を沸かしており、利用者の半数が隔日入浴し、希望者は毎日でも入浴してゆっくり楽しめるように支援している。時には柚子風呂やみかん風呂にするなど変化をつけ、入浴したくない人も入れれば喜ぶよう工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	裁縫、園芸(野菜、花)、ぬり絵、計算問題、カラオケ、花札、トランプ、ボール遊び、輪投げ、誕生会、花見、ドライブ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気晴らしの支援をし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう取り組んでいる。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	法人施設内の散歩や畑に出かけたり、買い物、ドライブ、季節の花見など、希望にそって出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、職員全員が身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルがあり、ヒヤリはっと・事故報告書に記載して対応策を検討し、介護計画に反映するなどして、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回、消防署の協力を得てAEDを用いた講習を受講している。応急手当や初期対応については訓練の機会が少なく、全ての職員が対応できるようになっていない。	・応急手当や初期対応の研修と訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設の施設や地域の協力員、利用者と一緒に年2回避難訓練を実施している。事業所独自で月1回程度、消火避難訓練を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報をファイルし、職員は副作用等を理解し共有している。薬は手渡して服用を確認している。必要な情報は協力医療機関の看護師を通して医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアの支援をしている。年2回、口腔ケアについての研修会を実施している。義歯の清掃、消毒、保管についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量をチェックし、おおよその栄養バランスや水分が確保できるよう支援している。毎月の献立を法人の管理栄養士に提出し、助言を得ている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、手指消毒、うがい、手洗いなど予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	畳の間には掘り炬燵があり、横になったり食事ができるようになってい。廊下にソファが置いてあり、壁には利用者の作品を飾り、あちこちに季節の花を飾ってあり、調理の様子も眺められ、生活感や季節感を感じて居心地良く過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や使いやすいベッド、テレビ、衣紋賭け、鉢花などが持ち込まれ、家族の写真や誕生日の寄せ書きの色紙などを飾って、その人らしく居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム ほたるの里
所在地	山口県萩市大字須佐1378-1
電話番号	08387-6-3168
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

① 入所者一人ひとりの思いを尊重しながら生活のメリハリをつけ、生き甲斐を持ち楽しく生活が過せる様援助を行います。 ② 可能な限りが外出し買い物や地域の活動に参加し地域との交流を行う。 ③ 食事は利用者の希望を聞きながら献立をたて職員が料理を作っています。材料は地元の食材を購入し使用している。④ 併設の特養利用者・支援ハウス寿利用者との交流をしている。

【実施ユニットの概要】 (2 月 8 日現在)

ユニットの名称	グループホーム ほたるの里					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの利用者数	9 名		男性	2 名		
	女性	7 名		要介護 1	1	
	要介護 2	4		要介護 4	2	
	要介護 3	2		要介護 5		
要支援 2			要支援 2			
年齢構成	平均	86.1 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	最初、自己評価項目を職員で分担し記入してもらい、会議で全項目を話あう。最後に管理者がまとめ記入する。
評価確定日	平成 22 年 3 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		家族との連絡を密にし地域との交流は積極的に行い入所者が安心して安定した生活が過せる様支援します」という事業所独自の理念を作り上げている。
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		理念を玄関や事務所に掲示し月1回の会議の時に話あい、理念を共有している。
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		運営理念を具体的に記述し事務所に掲示している。
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		研修や出張で学んだ事を会議で報告しサービスの質の向上に取り組んでいる。又会議の時各担当者より意見を出してもらいより良いサービスが行えるよう話あいをしている。
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		家族へは毎月発行する「ほたる便り」に年度初めに記載している。地域へはすさ苑便り(まごころ)で理念等記載している。
2. 地域との支えあい			
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		近くに民家は無いが、隣接の施設の方とは気軽に話しをしている。
7 (3)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		地域の行事、ふるさと祭り、運動会、敬老会、クリスマス会、夏祭り、等は積極的に参加し地域との交流を行っている。また近くの道の駅にも買い物に出かけ交流を行っている。
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
10 (5)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>		
11 (6)	<p>○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
12	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>		
13	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
15	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16 (7)	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	運営推進会議の資料は資料を玄関においてありいつでも見られるようにしてある。(特に要求は無い)		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営規定に記載してあり窓口に掲示してある、苦情や意見等はありませんでした。		些細な意見も記載として残しサービスの向上して行きたい。
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議で職員に意見や提案を発言してもらい早急に対応できることは会議で話し合っている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	電話や携帯電話にて随時連絡が取れるようにしている。管理者に連絡が入り管理者が調整を行っている。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動が決定すれば1週間くらい前から時間の都合を付け一緒に業務を行う。他の利用者にも連絡する。前職場の都合もあり公休を利用し事前に業務を行った。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会を与えている。又月1回施設研修も行っている。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	年齢は30代(1名)40代(2名)50代(5名)、男性1名、女性7名、介護福祉士(5名)ヘルパー(2名)看護師(1名)を配置しており柔軟な対応が出来るように努めている。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修や山口県・グループホーム連絡会の研修、勉強会に出席しサービスの質の向上に努めている。		他の施設との研修を行い良いところは取り入れてサービスの質を向上して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<p>○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族や本人から希望や意見を聞きか介護計画を作成している。モニタリングを開催しモニタリング表は家族に送付している。</p>	<p>モニタリングでの家族の意見が十分に把握できない。返送されるようにして行きたい。</p>
42 (17)	<p>○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>変化が生じた場合、家族と相談し介護計画を変更している。 例:転倒し骨折し状態が変わり変更した。</p>	
43	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子を介護日誌に記録している。又引継ぎノートにも記入し援助の変更を把握できるようにし情報が共有できるようにしている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<p>○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>緊急により遠方の病院への受診、入院のとき家族の対応が困難な場合は準備、搬送を行う。又介護用品が必要な場合業者との連絡調整を行う。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<p>○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>年2回行政、消防署、地域の消防団の協力にて消化避難訓練を行っている。週1回地元の移動図書(まなぼう号)で本を借りている。</p>	
46	<p>○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。</p>	<p>家族にはいつでも見学できるようにしている。ボランティアの受け入れがあれば積極的に行っている。婦人会のボランティアで活動を一緒にした。</p>	
47	<p>○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>利用者の身体の状態に応じてレンタルが必要になれば福祉用具専門事業所への連絡調整し、ベット、歩行器のレンタルをしている。又介護用品の販売も他のサービスを利用している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	問題が生じた場合地域包括支援センターに相談し話しあいを行っている。		
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医に週2回(火曜日・木曜日)に定期受診している。緊急の場合連絡を取り指示に従って対応している。歯科の場合は協力医院に受診をしている。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医での受診援助は行っていない。かかりつけ医の検査、受診により内服による治療を行っている。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の看護師とは連絡を密にし気軽に相談している。受診日以外の日や夜間での相談も応じている。又併設施設の看護師とも連携をとっている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合面会に行き担当医の説明を聞き家族に伝え、連絡を密にし情報を密にしている。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期での対応は設備も整ってなくか介護が十分に出来ない為終末期での対応は出来ない事を家族に伝え、終末期になれば病院や特養への移動できるよう話し合いを行う。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同上		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	体力の低下や、身体状態、認知症の回復により転居の場合家族と話し合い、情報の提供を行い、ダメージを防ぐようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人記録は施錠できるロッカーに保管している。利用者の誇りを傷つけないよう言葉使い等気をつけている。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	生活の中で利用者に問いかけ利用者の思いを活かせるよう働きかけているが内容により職員が決められている事もある。	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	利用者の希望やレベルにより行っている。料理、調理の下準備、掃除、お膳拭き、草引き等行っている。又全員ではないが役割分担を行い家事の手伝いを行っている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の希望を聞きドライブや買い物に出かけてる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	移動理髪店を利用し2ヶ月に1回散髪をしている。家族が来られ散髪される人もおられる。服も自分の好きな服を選んで着ておられる方もおられる。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事も食べたい物を聞き献立に取り組んでいる、食事での準備、片付けは出来る利用者には手伝ってもらっている。テーブル拭き、お茶入れ、食後のお膳運び等一緒に行っている。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	毎週移動販売車により好きなお菓子等購入されたり、自動販売機で好きな飲み物を購入されている。アルコールは行事の時に出している。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を作成し利用者の排泄パターンを把握し必要に応じて援助、介助を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	2日に1度午後より本人の体調や希望により実施している、入浴時間も強制せず1人1人の希望にあわせている。又洗身介助、着脱介助も状態に応じて介助している。季節に応じ柚子湯、みかん風呂も行った。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	利用者の生活習慣も踏まえ、日々の状態を把握し状態に合わせた休息を取ったり、安眠できるよう支援している。又夜間の入眠時間の入眠時眩しくないようカーテン等で光を遮断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、裁縫、園芸(畑の野菜、花植え)等個々の得意分野を活かし楽しみや生き甲斐に繋がるよう心がけている。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望によりお金(こずかい程度)を所持してもらいいつでも使えるように支援している。お菓子やジュースを購入している。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があれば散歩や買い物、ドライブ等外出の支援を行っている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族会で家族と一緒に年1回は外出し食事をするよう支援している。家族会では萩博物館に行った。又近隣の町の名所にも行く。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけて欲しいと希望があれば対応している。手紙が来ても返事は書かれなく電話で返事をされる。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問でき自室や食堂で交流できるよう配慮し、家族への挨拶、訪問へ対しての感謝や本人の様子等を話し次回への訪問に繋がるよう努めている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊の希望があれば利用者の居室で宿泊できるよう寝具類は常に準備してある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	<p>年1回の家族会で萩博物館を見学し食事をした。又3月にも家族会を予定している。法人での夏祭りでは案内状を出し一緒に参加してもらっている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>会議で利用者を傷つけないような言葉をしないよう話し合いを行い常に気をつけ職員がお互いに注意し気をつけている。</p>		
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>夜間玄関のみ施錠する。日中は開放し屋外に自由に散歩されたり、隣接の支援ハウスに行かれる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>夜間は1時間おきに確認し又物音がすれば速やかに様子を覗っている。日中は定期的に声をかけあい確認している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>裁縫箱やハサミを持っておられる利用者もおられ針は1本のみ糸はかならず通して糸巻きに巻いてしまっている。はさみを持っておられる利用者は自己管理されている。定期確認も行っている。</p>		
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止マニュアルを作成し1人1人に応じた対応をしている。事故報告書、ヒヤリハットは早急に記入し対応している。</p>		
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>法人全体での研修を行っている。AEDの研修は消防署職員の指導により年1回行っている。</p>		
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	<p>事故発生やヒヤリハットは事故発生時に記録し早急に話し合いを行い対応をしている。例えば夜間でのベットからのずり落ちではコールマットの利用を試みた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に花壇を作成し季節の花を植えている、また椅子を設置し、くつろげる様にしている。建物の周囲は年2回草引きを職員が行っている。	作業用具など収納場所があればよい。
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	それぞれの場所に季節の花を飾っている。壁の空間には季節にあった壁絵を利用者と一緒に作成し飾っている。テレビの音や光線による眩しさは利用者の声を聞き対応している。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下と食堂にソファと畳が敷いてあり、気のあった利用者がそれぞれの場所に座り話をされている。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には自宅で使用されていた、たんすやなじみの布団や物を置かれている、またテレビを持って来られ自由に見られている。落ち着いて過せるよう配慮している。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気空調の清掃は行っている。冬は加湿器を設置している。自室の換気は冬場であれば清掃の時や食事ですべて部屋を開ける時、換気をするように努めている。暖かい季節では窓を開け外気温との差が無いようにしている。	
外気温			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴槽内、トイレ、廊下には手擦りを設置し、身体機能に応じ利用されている。座敷で食事が出来る人は昇降時職員が見守りをしながら行っている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室が分かり難い利用者には居室ドアに名前を貼って夜間でも部屋を間違わないようにしている。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関横に花壇を作り季節の花を植えてる。またホーム横に畑を作り野菜作り、季節ごとの手入れも一緒にいり収穫した野菜を料理している。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① <u>ほぼ全ての利用者の</u> ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① <u>毎日ある</u> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	① ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族等と ② <u>家族の2/3くらいと</u> ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① <u>ほぼ毎日のように</u> ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③ あまり増えていない ④ 全くいない
108 職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① <u>ほぼ全ての家族等が</u> ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない